

資料① ふりがな付き解読文

かきとりをもつてもうしれそうろう、
以書取申入候、過日者初而会晤、互に情緒を尽し欣喜斜な
らす候、其砌貴国と和親貿易之条約延期之儀、段々申演し処、
事情黙し難き趣旨縷述せられ、其段熟考之上挨拶有之様申聞ら
るゝにより、悉く其意に随ひ、猶深く思をこらし、幾回も商量
を重ねぬといへとも、其許縷述之趣ハ、我等おゐてもとく推度
せし上にて思ひ定めし事なれハ、答辞いま他意なし、尤言語の同
しからさるより、互に訳者の口を借りて相通する事なれハ、自然
両情の徹底せずして、我等か誠意の届かさらん所は、深く恐る
ゝところなれハ、猶其節の議論を左に詳述す、抑我國を鎖して
外交を求さりしハ、殆三百年に及へり、然るに亞墨利加合衆国
大統領 忠告の切なるにより、近く其制度を改め、沿海諸船に其
必需の用を給し、再び亞墨利加公使ハルリスの請に応し、方今行
ふ所の通商を開き、魯西亞・仏蘭西・英吉利及び和蘭の諸州へ
ひとしく条約を極しに、開港の後、其情状意料の外に出て、い
また其有益を見ず、加之 彼我貨幣の価平かならずして、域外
へ輸出するの物産ハ夥しく邦外へ、輸入の財品ハ甚稀なり、遂
に物価騰踊日を追而甚しく、細民の業を失へる者、窮夫の饑寒
に臨む者、怨謗漸く起りて、富戸顕貴も又快しとせさるの萌少
なからず、是れ我國家の憂る所なり、積年の習風一朝除くへき
にあらされハ、此患憂なしといへとも、いまた民心歓娛の程期すへ
からず、況や前述の所之弊端、遍く衆庶の生産に障りあれば、勢
ひ外人を厭憚し、或ハ仇視するにも至るなり、此時に当りて戸

暁人諭して、後日の利益ある事を信せしむること甚難し、今其適宜の所置を思ふに、貨錢の価値を追て平均し、出入の物産内外の数を異にせず、衆民自ら其利益あるを悟り、令せずして進み、日々外交の盛んなるを樂むの時を待て、徐にこれを計らんハ、しかし夫れ漸を以て行ふ時ハ、力を費さずして事の難きを忘れ、迫りて処する時ハ、理直なりといへとも、患害或ハ是れに隨ふハ勢の然らしむる処なり、此頃白耳義・瑞西の二国より和親通商の請ありしに、是故を以て謝絶せり、方今邦内の情状、前に述ることくなれハ、政府といへとも威力をもて強ひかたく、今其行ふへからざるを知りて、暫く其求に應ずるハ、誠信の道に背き、其弊害已に交る所の成盟を保ち難にも至らんことを恐る、ポルトガルは旧交の因あるにより、近日条約を結ひし所、更に物議を生し、一層の紛擾を重ねたり、今將貴国の求に應ずる時ハ、其他各国の求もいなみかたきに至るへし、其時勢に逆ひ、民心に違の弊、如何なる禍変を醸さんや、前知すへからず、是我輩の遠く慮り深く憂るところなり、よつて既往を鑒み、将来を察するに、急に謀て其事を誤らんよりハ、時を待て其功を全ふするにしかず、將貴邦眼前の意に忤るを憚て、我朝不測の禍患を招んより、民情馴和の後に應し、各国不朽の交誼を遍くせんにしかず、勿論書ハ言を尽さるるにより、委曲の情状ハ委任兩人の口吻に囑せしにより、追々面晤に詳悉有之度、しかし又言ハ意を尽さざるにより、本書布陳する所の意と、兩人演達する処の言と、深思熟慮ありて筆紙を借り言語に寄せて、呈露し難き我等誠款無偽の赤心を察し、両国懇信の安全を謀り、人心帰向の期を待ち、再議に就て其顛末を終ん事を望めり、此段申入候事

資料② ふりがな付き解読文

人心不折合との儀者全日本一箇の私事ニ而外国に預候事
これなく、不折合之廉々者政府之威権にて如何様ニも所治られ度
候事、右政務難届との儀ニも候ハ、政府之詮無之云々の意

右答
みぎこたえ

当節人心不折合之儀者日本の政務に起るにあらず、外国と貨幣の
価不均、輸入之品絶少、輸出之品過分ニ而物価騰貴、民業
に差障不少より自然騒立候事にて、右貨幣之価均一之
事に付而、開港以来心を尽し議論および候得共、各国公使合一
の持論ありて、内外之異同懸隔におよひしより右の弊端を生ぜ
しにて、日本一箇の所置に起るにあらず、然りといへとも其事を
整、永久の安全を計るハ固より政府の所任なれば他人の請な
くとも適宜之所置を勞する段ハ勿論なり、右ハ過日も申述し如
く漸を以行ふへく、急速の取計に難叶なり、将又其条約
之期を延さんとの望ハ、日本の私意に因るにあらず、我邦域不測
の患害を避けん遠謀に基けり、若是を熟察せは貴国一己の名利
のため強て其請あらさるへし

李漏生国も魯仏英亞等と優劣無き処、外四国江結たる条約を
省れける者其国の名相響云々之意

右答
みぎこたえ

貴国の強勢なる事ハ各国遍く知る処にして、日本の扱に依
而強弱を為にあらず、今其利害得失を審にするに、有名の

貴国万不足なくして日本一國の交易を広むるも恐く者益とする
に不有、又日本一國の交を欠たりとも所損あるに非ず、詰り日本
の交と不交と亭漏生國ニおゐて甚損益あるを見ず、日本に於て
此上新に一國の交を増せ者、民心に皆き財貨を施る事、前述る
処のことゝなれハ、其禍害すくならず、且其意急迫にして事
を破んより、順序を緩とし永久の万全を計るにしかず、素よ
り貴國の請にもとるにあらず、是を道理に測るに、何れ歟公、何
れ歟私、深遠熟慮ありて再答を請ふ

外諸國と貨易御取扱相成、独逸と無之情態者永く難差置云々

右答

固より日本於而も此俛永く差置の意なし、交易に利潤あるを
國民遍くさと都鄙異辞なからん事を求て夙夜改革に勞れハ
数年を待す人心和し内外折合へきあひた、其節ハ速に其旨通
達 およひ再議におよふへし